

# 平成23年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	秦野 稔子
作成日	平成 24 年 2 月 21日

## 1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、最後までよく考え、意欲的に生きる子どもの育成 おもいやりのある子    かんがえる子    さきに行動する子    きたえる子 (豊かな心)                    (考える力)                    (実践する力)                    (強いからだ)
--

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師・児童・保護者が教育目標を意識し具現化のため努力をする。</li> <li>・ 保護者や地域との信頼関係を深め、地域の関係団体とも連携を図り、児童の健全育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育を柱に「豊かな心を持ち、よりよく生きようとする子ども」を育成する。</li> <li>・ 教育活動全体で道徳教育の実践をする。</li> <li>・ 道徳の時間の指導の充実を図り、研究発表会を行う。</li> <li>・ 心を豊かにする体験活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わかる授業づくり」「楽しい授業づくり」を目指し取り組む。</li> <li>・ 「書く力」について研修し、思考力・表現力を伸ばす。</li> <li>・ 授業や「学習タイム」で基礎基本の確実な定着を図る。</li> </ul>
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標(おもいやりのある子・かんがえる子・さきに行動する子・きたえる子)について伝える機会を増やして意識化し、その具現に取り組む。</li> <li>・ 児童の様子について、家庭への連絡を行うとともに、保護者から相談しやすい関係を作る。</li> <li>・ 学校からの広報誌(学校便り・学年通信・保健便り等)で教育活動等を広く知らせる。</li> <li>・ 授業参観や運動会・集会等の学校行事を保護者はもちろん地域の方々にも門戸を開く。また、学校行事だけでなく、公民館の作品展や地域の避難訓練を学校で行う。</li> <li>・ 児童の学年や発達段階に応じ、地域の方々との交流を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳の時間と教科・特別活動・総合的な学習の時間と連携した総合単元を組み、教育活動全体で道徳教育を意図的に行う。</li> <li>・ 道徳の時間の取り組みについて見直しを図り、子どもの学びを深める資料選択・多様な考えを誘発する発問・心の動きや変容がわかる板書・自己の生き方について考えを深める活動等の視点を持ち、充実を図る。</li> <li>・ 一人一研究授業ではクラスの子どもの実態を見つめ、つけるべき力を考えて総合単元を組み、資料を選んで発問を考え、子どもを鍛えて授業を行う。</li> <li>・ 心を豊かにする体験活動(縦割り活動・加太合宿・交流活動・元気な森の子・観劇・社会見学等)の内容の精選を行い、充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の「めあて」と「まとめ」をわかりやすく提示する。</li> <li>・ 思考力・表現力を向上させるとともに、活用力をつけるため「書く力」について研修を深め、考えを書く力を伸ばすことを大切に授業づくりを行う。</li> <li>・ 「学習タイム」の内容を充実させ、ドリルやプリント学習・読み聞かせや読書の時間として、計算や漢字・国語力の定着を図る。</li> </ul>
(評価結果【C】課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「おかざき」に合わせて作った教育目標を学校便りや講話で意識的に知らせた。</li> <li>・ 学校便りは、学校の教育目標や活動内容、児童の様子等を裏表で作成し情報量を増やした。また、運動会や授業参観等の学校行事予定についても保護者だけでなく地域にも発信した。</li> <li>・ 地域の各種団体と連携し避難訓練や公民館作品展を小学校で開催し、地域の方々为学校を訪問しやすい環境を作った。</li> <li>・ 児童のけがやトラブル等には迅速に連絡をとるとともに保護者の相談等には真摯に対応した。関係機関と連携してよりよい環境作りを行っている。</li> <li>・ 前年に比べアンケートの「子どもが相談しやすい学校」と「学校は教育活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」の項目が数ポイント低くなった。</li> <li>・ 通学路等の危険箇所については、地域の関係機関と連携して、早期に改善できるよう対応し、地域のご協力で多くの場所(歩道・焼山吹きつけ・井辺の用水路反射体ポール・学校横のガードパイプ等)の改善できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市教育委員会の道徳教育の指定を受け、研究を行った。</li> <li>・ 児童の実態を把握し、教育活動全体で道徳的な力を育むため、総合単元を組み、道徳教育に取り組んだ。</li> <li>・ 畿央大学島教授や協力者の指導を受け、道徳の時間の資料や発問、自己の生き方の考えを深める活動等を工夫して、指導の充実を図った。</li> <li>・ たてわり班の活動を毎朝の清掃だけでなく、交流給食や交流遊び、学校探検やプール学習等でも活用した。</li> <li>・ 森林体験やときわ会との交流会、文化庁の子どもの文化芸術体験事業、馬頭琴の演奏会など、心を豊かにする質の高い体験活動をした。</li> <li>・ 教科等別研修会で、道徳教育の研究発表を行い、良い評価を受けることができた。</li> <li>・ 県道徳教育研究協力校の指定を受け、研究成果を、県教育実践研究大会で発表するとともに、県の道徳教育推進リーフレットの作成にいかした。</li> <li>・ アンケートや全国学習状況調査の結果より、道徳的な心情の項目のポイントが高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領全面実施の年で、新しく内容が増えた教科書を使っての指導を充実させるため、教材研究にしっかり取り組んだ。</li> <li>・ 基礎的な知識・基本的な考え方の確実な定着を図るため、授業中の学習はもちろん、帰りの会の前に「学習タイム」でも、毎日計算や漢字、作文や視写、読書等に学年やクラスで取り組んだ。</li> <li>・ 全国学力・学習状況調査の結果では、基礎基本は概ね達成できているが、思考力や表現力・基礎的な知識の活用力を問う問題には課題があった。</li> <li>・ これらの力をつける方法は、まず書く力をつけることが大事だと考え、学期初めの会議で考えの書かせ方の例を持ち寄り、手だてや手法を協議し、それを授業に生かすようにした。</li> </ul>
改善方法【A】への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校便りを保護者だけでなく地域へも広く知らせることで、学校や子どもの様子を知らせる。</li> <li>・ 学校が地域の方々との連携をより深め、児童が地域の方々と交流する行事を続けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も引き続き和歌山市教育委員会の研究指定を受け、道徳教育の研究に取り組む。</li> <li>・ 今年度作成した道徳教育年間指導計画を充実させる。</li> <li>・ 豊かな心を育てるため、日常生活の中での体験活動を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領2年目も教材研究をさらに深めて充実した授業を行うとともに、「学習タイム」の質の向上を図る。</li> <li>・ 思考力や表現力・基礎的な知識の活用力を向上させるため、書く活動についてさらに研修を深め、考えを書く力や人前で話す力を伸ばす。</li> </ul>

## 3 その他の課題

児童の命と安全を守るため <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不審者等に対して俊敏に行動できない低学年の教室を2階に移動する。</li> <li>・ 火事や地震・津波の訓練・不審者に対する避難訓練を充実させる。</li> <li>・ 地震や津波についての学習を充実させる。</li> </ul>
--